

倫理法人会の母体となるのが、一般社団法人倫理研究所です。教育者で思想家でもあった丸山敏雄によって設立され、和やかな家庭、活力ある職場、明るい地域社会をつくるのが、美しく平和な世界を築く第一歩と捉え、様々な事業を展開しています。倫理法人会と家庭倫理の会という二つの組織があり、両会員が活動を支えている会員組織です。両会員組織ともに、幸福になるための生活法則（純粹倫理）を、周囲の人々に伝え、家庭や職場をより良いものにしていくと、日々仲間づくりに奔走しています。

こうした活動を「倫理運動」と呼び、全国の会員の手によって支えられ、もう間もなく七十五年の節目を迎えます。

倫理運動の創始は、昭和二十年九月三日です。その前日に東京湾上に停泊していたアメリカ合衆国の戦艦ミズーリの甲板上で降伏文書調印式が行なわれました。

その翌日に、『夫婦道』という論文を丸山敏雄が起稿し、これをもって「倫理運動創始の日」としています。その日の日記の冒頭を読むと、丸山敏雄の烈々たる決意が伝わってきます。

『夫婦道』起稿。この平和と世界文化建設の大任に入る。

なぜ、『夫婦道』という論文が平和な世界づくりに結びつくのか。それは、平和な世界を築くためには、まずは最小の組織である夫婦を、さらに家庭を調和あるものにしなければならぬという気概から、論文を



平和な社会を目指し 愛和の実践に取り組もう

書き始めたからです。丸山敏雄は夫婦について以下のように述べています。

世に「人の守るべき道」があるとすれば、なによりも夫婦の道が先であり、これがすべての道の本でなければならぬ。それは、夫婦の関係が人倫の初まりで、親子・兄弟・交友などは、それより分れつづくものであるからである。

自分を取りまく多くの人々、また人のみならず物や自然との関わりなしに、私たちは生きていくことができせん。人が幸せに生きる「くらしみち」、人倫の哲理は夫婦が本（もと）なのです。

『夫婦道』は、イザナギ、イザナミの二神による「国生み神話」にも触れています。この二神が夫婦和合し日本が誕生したとされています。そこに「生成発展の原理」を見出すことができるのです。

生成発展の原理とは、この世の中は様々なものが対立を成しており、その相反する二つが合一することによって、この世のすべてのもので、生命や幸福ですらも生み出だしていくという原理です。「対立・合一・生成」という一つの法則が成り立つのです。

平和な世界を築くためには、それぞれの国を、地域社会を、職場を、さらに突き詰めていくと家庭を、そして何よりも家庭の本である夫婦の関係をより良いものにしていくことが求められます。

世界平和は何も気宇壮大なものではなく、目の前の夫婦愛和の実践からなのです。